

ひばりが丘 M カフェだより No.26 2021. 10. 30 発行

編集・発行：メディカルカフェひばりが丘

<https://hibari-hills2017.jimdo.com>

メディカルカフェひばりが丘は一般社団法人がん哲学外来の協力のもとに運営しています。

詳しくはホームページで。全国のカフェ情報もあります。⇒<http://www.gantetsugaku.org/>

開設 5 周年に感謝して



「がん哲学外来メディカルカフェひばりが丘」は、開設 5 周年を迎えることができました。樋野興夫先生をはじめ、各地のがん哲学カフェの皆さまにご指導いただいて、1 年半の準備期間を持ち、開設後は、その時どきに参加者・スタッフに恵まれて、歩みを続けられました。皆さまの温かいお気持ちとご協力に、心より感謝いたします。

5 月 5 日に、オンラインによる記念講演会「あなたはそこにいるだけで価値ある存在」を開催しました。茨城や大阪、静岡からもお申し込みいただき、新たな出会いと交流の機会が与えられて、大変有意義な時間となりました。

今回は、発題として、メディカルカフェ in 世田谷深沢代表の月岡邦彦さんと白鷺メディカルカフェ代表の太田和歌子さんのお二人から、それぞれのカフェの開設から今までを振り返って、ご経験と今の思いを語っていただきました。

月岡さんは、野球と仕事を中心の人生から、お連れ合いとご自身のがん罹患をきっかけに 180 度方向転換し、すれ違いがちだった家族とも向き合って対話が生まれたこと。教会とがん哲学とに出会い、受洗して 1 年でカフェ開設を実現したこと。スポーツマンらしくエネルギーで温かいお人柄の中に、痛みと付き合いつつ日々前向きに歩んでおられる生き方に、大変感銘を受けました。10 月 25 日に天に召されたことがまだ信じられませんが、天国のカフェでわたしたちを待っていてくださることでしょう。よい出会いに感謝いたします。

太田さんとは、お互いのカフェを行き来して活動しております。今回、お祝いメッセージもご寄稿いただきましたので(2 ページに掲載)、是非お読みください。

樋野興夫先生からは。がん哲学の基本理念「人に寄り添う」ということを、数々の「言葉の処方箋」を交えて語っていただきました。樋野先生が後の時間をみこんで早めに切り上げてくださったので、最後に参加者全員から、自己紹介と感想を伺いました。月岡さんからの新潟の八重桜の枝を、スタッフ・高田千賀子さんからはお庭のバラをお持ちいただきました。当日スタッフの川島元さん、高田さん、1 日裏方のご奉仕お疲れさまでした。

皆さまの、さりげない温かいご配慮に倣い、「空っぽの器」として訪れる方をいつでもお迎えできるカフェを目指して精進したいと思います。
(世話人代表・田鎖夕衣子)

がん哲学外来メディカルカフェひばりが丘 5周年記念に寄せて



太田和歌子

がん哲学外来メディカルカフェひばりが丘の皆様、5周年おめでとうございます。皆様と親しくさせていただくのは、こちらのカフェが立ち上がる時に妹(中井理佐子)が田鎖さんとお話したことがきっかけです。

妹は2016年8月に天国へ旅立って行きました。その後を私が引き継いだわけですが、メディカルカフェの運営は妹任せでしたので、わからないことや困ったことを、今度は私が田鎖さんに相談させていただいています。開催月も偶数月と奇数月に分けて、「姉妹カフェ」と名付けて親しくさせていただき感謝です。

「がん哲学外来白鷺メディカルカフェ」はひばりが丘の1年前に立ち上げました。今年で6年目です。当初から教会の活動とは分けて、「共催」という形をとってきました。なぜなら、「メディカルカフェでは特定の宗教についての勧誘や布教活動をしたくないこと。」というのがあったからです。しかし、なぜわざわざ教会で開いたのか。それは妹も雑誌「信徒の友 2015. 11」で語っていますが、「地域に根差した教会」を目指したかったからだと思います。「地域に仕える公の家」として、いろいろな人の心のよりどころになることこそ、教会本来の目的ではないかと語っています。

がん哲学外来白鷺メディカルカフェは参加者は多くありません。あまりにも参加者が少ないと「さて、続けていけるか？」と気持ちが萎えてしまいそうになりますが、他のカフェの先輩方から「参加者の人数じゃない。一人の為にカフェを開いたっていいじゃない。続けていくことに意味があるよ。」と励ましていただきます。

コロナ禍で開催が難しいこともあると思いますが、「どうやったら開けるか。続けられるか。」を是非一緒に模索しながら、共に歩んで行けたらと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。

★ 白鷺メディカルカフェでは、今年8月、カフェ発足6周年と、代表・中井理佐子さんのご召天5年を記念して『メディカルカフェによるこそ』と題した小冊子を発行されました。

私も寄稿させていただきましたが、メディカルカフェについて多くの方に知ってほしいとの願いが込められた冊子です。

ご希望の方は田鎖までお問い合わせください。

(田鎖夕衣子)



連載

— 保護猫パンチ君との日々 (3)

高田千賀子



早いものでパンチとの暮らしも 10 ヶ月となりました。

昨年の今ごろはまた猫が飼いたいと気持ちを固め、あちこち猫の保護活動をしている団体に連絡をしていました。高齢者が猫を飼うことは当然のことながらハードルが高く、断られるたびにがっかりしていたことを思い出します。その後、縁あってパンチがきてくれることになった時の喜びは今も忘れることができません。

我が家にやって来たのは9月の半ばで、そのとき約1歳ということでしたので、はっきりしていないパンチの誕生日は9月9日と決めました。他の日では忘れそうなので覚えやすいからです。ちなみに、長男夫婦の愛犬あいちゃんは6月6日で、こちらも忘れられません。また、私の誕生日は1月1日です。どれも覚えやすいですね。

さて、この10ヶ月間のパンチの暮らしぶりをお伝えしようと思います。

朝は4時から5時に私を起こしに来ます。すぐご飯が欲しいときは、“ニャーオ”とないて、ベッドに手をかけもう一度“ニャーオ”。まだおなかはずいていないけれど、起きてくれないかな、というときは小さな声で“ニャ”となくと、私が起きるのをベッドの脇でじっと待っています。そっ

とようすを伺うとこちらをみつめているパンチの目と私の目があったりして。そんな時は思わず起きてしまいます。そうなんです、パンチが来てからはほとんど時計のアラームは必要ないのです。おかげさまで早寝早起きです。

ごはんの前後は遊んで欲しいのアピールです。気に入ったおもちゃをくわえてきて目の前におき、正座をし、こちらを見上げています。初めはペットショップでかかってきたひも付き虫、ねずみの起き上がりこぼしがお気に入りでしたが、あっという間にぼろぼろにしてしまいました。その後は、ペットショップのおもちゃを参考に手作りです。とくに喜んでくれたのは、毛糸だまです。20個くらい作りましたが、一番のお気に入りは小さめ、固め、紺色です。どうして紺色が良いのかは分かりませんが、小さくて固めなのはくわえやすいからようです。毛糸だまをひょいっと爪にひっかけるとひとりでサッカーをやっています。今は100均でもねこのおもちゃを扱っています。安くてお手ごろです。

本来ねこは外を駆け回っているものだと思うのですが、室内飼いとなるとよくテレビで見るようなキャットウォークが必要なのではと考えました。でも、パンチは高いところとみれば家具であろうとなん



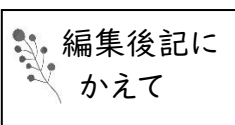
であろうと飛び乗っていますし、2階、3階と階段を上り下りしているので充分ではないかと息子と相談の上設置はやめました。

さて、ある晩ぐっすり寝入っている私の部屋で“ドサッ、ガターーン”ともものすごい音が。なんと、仏壇の上に飛び乗ったパンチが線香立てに足を突っ込み、灰を全身にかぶって、黒猫のはずがねずみ色になりぼうぜんとしているではありませんか。驚きとおかしさとびっくりです。はやくしないと家中が灰だらけです。とは言え掃除機嫌いなパンチにブーンとやるわけにもいかず、抱きかかえてお風呂場へ。はたきでパタパタと灰落としです。

あーもうこの夜中になんということをしてくれるの！！

その後、パンチのケージをおくためにリビングから私の部屋へ引越していた仏壇は、とうとう一階の誰も使っていない部屋へと再度の引越しです。そこは玄関脇のテレビも何も無い静かな部屋。仏壇といっしょに曾祖母、祖父母、父母、夫の写真も全て移しました。写真を見るたびに出入りの多い私を見守ってくれているのではと思っています。仏壇はとても良い場所に落ち着きました。パンチのせいで！いいえ、パンチのおかげで！ですね。

★高田さんからは7月初めに原稿をいただきましたが、緊急事態宣言に伴いカフェ開催・掲載が遅くなりました事をお詫びいたします。次回もお楽しみに！



月岡邦彦さんが、人生の最後にごんカフェを開設し、いい覚悟

で生き切ったこと、病気であっても病人ではない人生を走り抜けたその風を受けて、私もまた、いい覚悟で生きたいと願うものです。出会いに感謝します。(田鎖夕衣子)

第30回メディカルカフェのご案内

2021年11月20日(土) 13:30-15:30

●参加費: 300円 ●定員 15名

★予定変更の場合もあります。事前にホームページをご確認ください。

お申込先: e-mail yuipeace@tbz.t-com.ne.jp

TEL 090-8086-3409 田鎖(たぐさり)

会場: 日本キリスト教団ひばりが丘教会

〒188-0001 西東京市谷戸町3-3-5 tel.042-422-3732

教会ホームページ: <https://hibari-hills2017.jimdo.com/>

